

群馬県古墳概観

復刊版

昭和十一年四月

群馬縣古墳概観

群馬縣

群馬地域文化振興会

昭和十一年四月

群馬縣古墳概觀

群馬縣

はしがき

(一)

我が上野國は日本に於ける有數の古墳國である。このことは上毛の山野を跋渉するものゝ誰もが之を目撃し得る所であるのみならず、上野風土記、上野名跡誌、山吹日記、上野國誌等の文獻に依つても窺ひ知ることが出来るのみならず、從來全日本の何れの方面に於ても未だ曾て試みられざる這次古墳調査の結果八千三百有餘の現實の存在を臺帳に確認記入し得た事實に依つて證せらるゝ所のものである。

(二)

由來上野國が東日本肇國發祥の中心地であつたことは、少しく國史に通ずるものゝ齊しく認むるところである。今を距る一千九百八十六年前 崇神天皇の第一皇子豊城入彦命 勅を拜して東國を統治し、次で 景行天皇の御代 豊城入彦命の御孫彦狹島王ひがしのやまののみこ東山道ひがしのやまのちみち十五國都督を拜して赴任の途次不幸にして春日穴かすがのあな昨邑きのむらに病みて薨せらるゝや、東國の百姓之を悲しみ、その尸を運びて上野國に葬り奉つて居る、彦狹島王の御子御諸別王は父の志を繼いで東山道十五國都督を拜して善政を得、その後裔は永く東國に繁衍して上毛野君下毛野君等が始祖を爲してゐる。従つて當時の上野文化は光彩陸離たるものがあつたであらう。かくて古の我上野の地は京都との間を頻繁に來往する貴人或は國造、國司、屯倉首、郡郷の有司、土豪の生活圈であつたと同時にそれがやがて墳墓の地となつて御靈を鎮め

給ふたであらう上野國が日本に於ける有数の古墳國であることは固よりその所である。それ等の古墳は二千數百年乃至千數百年に亙つて嚴然として存在してゐた。然しこれが存在の態様を闡明した事實は未だ會つて聞くを得なかつたところである。然るに君島群馬縣知事は本縣に赴任せらるゝや直に此に著目して之が存在分布の概要を一齊に調査し之に依つて同時に併せて古墳尊重心の涵養を圖ることゝなつた。

かくて昭和十年の春縣は古墳調査を實施せんとする計畫を樹て全縣市町村長會議及小學校長會議に之が指示を行ひ次で昭和十年七月二十二日古墳調査に關する通牒が發せられ調査擔當者、調査すべき古墳、調査の方法等が指示された。尙調査上遺憾なきを期せんが爲八月上旬縣下各市町村の調査員を集め前橋、高崎、の兩市及び新田郡太田町の三ヶ所に調査員研究會を開催した。參會者六百三十一名内市町村長同吏員百二十三名中等學校教員特志者百名小學校教員四百八名が參會して受講研究する所があつた。

(三)

這次古墳調査はその規模の大小に拘らず古墳並古墳と認むべきものゝ總てに付て之を調査したもので既に發掘せられ或は破壊せられ現に墳丘の形をとゞめて居らない所謂古墳趾に付ても總て調査された。隨て型式不明の古墳も相當多數に及んでゐる。

調査に當つては各市町村毎に役場の烙印を押したる標木に一貫番號を附し夫々各古墳に建設し尙別記調査票記載例に基き調査票を作製、平面圖、見取姿圖、古墳分布圖等添付せしめ將來の調査保存上に便した。

本書中に挿入しある古墳分布圖は即ち各市町村より提出された分布圖を參考にして其の概要を示したものである。

古墳調査票記載例 (昭和十年八月調査)

調査事項	記 載 例	記 載 上 ノ 注 意
番 號	第一號	市町村毎に一貫番號ヲ付スコト 通常稱フル名稱ヲ記載スルコト特ニ名稱ナキモノハ(ナシ)ト記載ス
名 稱	二子山(茶白山)(淺間山)(ナシ)	
所 在 地	前橋市天川原字東下一五七番一五八番	古墳所在土地ノ地番、地目、地積及所有者ノ住所氏名ヲ記載スルモノニシテ二筆二上ニ跨ルモノハ之ヲ列記スルコト
地 目 地 積	一五七番 墓地 七反三畝二十三歩 一五八番 山林 二畝十五歩	
所 有 者	一五七番 國 一五八番 前橋市曲輪町 林太一	
型 式	前方後圓型(圓型)(不詳)周圍ニ淺趾アリ(淺趾ナシ) (一部ニ淺趾ヲ存ス)	前方後圓型(一般ニ二子山、瓢箪又ハ車塚ト稱スルモノ)圓型(一般ニ丸塚ト稱スルモノ)等古墳ノ型式ヲ記載シ淺趾ノ有無ヲモ記スコト、不明ナルモノハ(不詳)ト記ス
大 小	墳丘ノ全長 三百二十尺 前方部ノ高サ 三十三尺 後圓部ノ高サ 三十六尺	上欄記載例ハ前方後圓型墳ノ場合ニシテ圓型墳ニ付テハ直徑竝高サヲ記載スルコト
現 狀	芝地ニシテ若干ノ松杉等アリ (雜木ニテ蔽ハル)(荒蕪地)	上欄記載例ノ如ク實際ノ狀況ヲ記載スルモノトス
發掘ノ有無	發掘セラレズ(明治十五年三月發掘)(明治二十二年、三十年頃發掘)(惟新前發掘年月不詳現在石櫛ノロヲ開キ居レリ)(石櫛ナシ)(石櫛ヲ存ス)	發掘ノ有無、竝其ノ狀況ヲ上欄記載例ノ如ク記スコト
出 土 品	別紙記載ノ如キ出土品アリ現ニ村社諏訪神社ニ藏ス (別紙記載ノ如キ出土品アリタルト傳フルモ現在不明)(出土品アリタルヤ否不明)(出土品ナシ)等	出土品ノ有無、其ノ所在等ヲ記載シ品目數量等ハ別紙ニ認ムルコト 推定ニ拘ハルモノハ其ノ旨ヲ記載ス
由 來 徵 證	古來御諸別王ノ墳墓ト傳フ(上野風土記ニ著ハル) (上野名跡誌ニ著ハル)(上野國誌ニ著ハル)	口碑傳説等アルモノハ簡明シニ之ヲ記載古書等ニ著ハレタルモノハ之ヲ記載スルコト
管 理 ノ 有 無		現在古墳地管理ノ實際狀況ヲ記載スルコト
參 考 事 項	昭和二年三月五日文部大臣ヨリ史蹟トシテ指定セラ ル(別紙ノ如キ調査書アリ)等	爾來調査セル資料アルモノハ其ノ寫ヲ添付スルコト其ノ他特ニ保存ノ急ヲ要スル等參考タルベキ事項ヲ記ス

(四)

調査員には小學校教員及地方特志者の中より市町村長、小學校長協議の上選定し市町村長指揮の下に調査を行った。時天候極めて不順且つ一市町村内に於ける古墳の數二、三百基多きは實に六百基に及ぶものあり、調査上の困難は到底筆舌に盡し難きものがあつた。或は炎熱を冒し、或は豪雨と闘ひ山野を馳驅して之に當り古墳の存在多きところにあつては小學校上級兒童青年團等の補助の下に調査せるところも少くない。これは一面古墳愛護尊重心の涵養助長の上から觀ても裨益するところが甚大であつた。

(五)

また主務の學務部に在つては學務部長群馬縣書記官水谷秀雄、社寺兵事課長地方事務官大崎範一、社寺係屬大圖軍之丞、同吉澤澄治、同青木一郎、同堀川定夫、社寺係屬吉田武等は調査方法の研究調査員に對する指揮、報告書の整理等に眞に寢食を廢して之に當り遂に十二月末に至り全部の調査報告書を得るに至つた。編秩の浩澣なる三市十一郡に互り實に百六十七冊を算するの狀である。量に於ても著大であると同時に質に於ても當代の至寶と云はなければならぬ。本書はその調査報告を要約して上梓したるものであるが、主として社寺兵事課長大崎範一及群馬縣史蹟名勝天然紀念物調査會臨時委員相川龍雄をして執筆せしめたものである。

尙同時に執筆した古墳每基の要目竝に分布解説概要は脱稿してゐるのでこれは近き將來に於て刊行公表するところであらう。

(六)

本調査の實施に當ては文學博士黑板勝美氏の指導を得たるところ少からざるものがあると同時に群馬縣史蹟名勝天然紀念物調査委員岩澤正作、八木昌平、岡部福藏、相川之賀、豊國義孝の諸氏が陰に陽に助力せられたことに對して茲に感謝の意を表するものである。

また直接調査の任に當つた調査員各位に對してはこゝに改めて深甚の敬意を表する次第である。

(七)

本書公刊に際して群馬縣、東日本經營望業奉讚會、敬神崇祖精神高揚事業期成會は合同主催して、群馬縣下所の總ての古墳に鎮ります英靈を慰めまつる古墳祭を舉行することを得るのは誠に愉悅を禁じ得ない。庶幾は英靈長へに國の鎮めとならむことを。

昭和十一年四月

群 馬 縣

目次

一、古墳 寫眞	
二、古墳出土品寫眞	
三、古墳に就て	一頁
四、御墓と傳へらるゝ古墳	四
五、大前方後圓墳一覽表	一一
六、市町村別數表	一四
七、前方後圓墳市町村別數表	一八
八、方型、上圓下方墳市町村別數表	二三
九、圓型墳其ノ他市町村別數表	二六
一〇、古墳分布圖	